【公表資料◆C 授業計画書】

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
人間の尊厳と自立（にんげん そんげん じりつ）	講義	木崎美和子（きざきみわこ）	実務経験による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

人間の理解を基礎として、尊厳の保持と自立について理解し、介護福祉の倫理的課題への対応能力の基礎を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・人権思想・福祉理念の歴史的変遷を理解し、人間の尊厳・人権尊重及び権利擁護の考え方を養うことができる。
・人間にとっての自立の意味と、本人主体の観点から、尊厳の保持や自己決定の考え方を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 人間の理解
3 人間の尊厳について
4 人間の尊厳と人権・福祉理念　人権思想の歴史
5 人間の尊厳と人権・福祉理念　人権思想の歴史
6 人間の尊厳と人権・福祉理念　人権思想の歴史
7 人間の尊厳と人権・福祉理念　日本国憲法
8 人間の尊厳と人権・福祉理念　日本国憲法
9 基本的人権について 生存権
10 基本的人権について 人間の尊厳とは
11 基本的人権について 幸福追求権
12 自立の概念
13 自立の概念 自立生活
14 自立の概念 尊厳の保持と自立
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜　講師が用意した資料を使用する。	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
人間関係とコミュニケーション（にんげんかんけい）	講義	宇留野彩子（うるのあやこ）、八月朔日晃一（ほずみこういち）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
30回	60時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

（1）対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。
（2）介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

・人間関係を形成するために必要な心理学的支援を踏まえたコミュニケーションの意義や機能を理解できる。
・介護実践をマネジメントするために必要な組織の運営管理、人材の育成や活用等の人材管理、それらに必要なリーダーシップ・フォロワーシップ等、チーム運営の基本を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係の形成
3 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係の形成
4 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係の形成
5 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係の形成
6 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係の形成
7 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　コミュニケーションの基礎
8 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　言語コミュニケーションと人間関係
9 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　非言語コミュニケーションと人間関係
10 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　現代のコミュニケーションと人間関係
11 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係を育てるコミュニケーション
12 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係を育てるコミュニケーション
13 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係を育てるコミュニケーション
14 人間関係の形成とコミュニケーションの基礎　人間関係を育てるコミュニケーション
15 まとめ
16 チームマネジメント　介護サービスの特性と求められるマネジメント
17 チームマネジメント　チームマネジメントの基本
18 チームマネジメント　ケアを展開するために必要なチーム
19 チームマネジメント　実践力を高めるためのチームマネジメント
20 チームマネジメント　チームワークに必要なリーダーとフォロワー
21 チームマネジメント　介護職としてのキャリアデザイン
22 チームマネジメント　キャリア開発のしくみ
23 チームマネジメント　キャリア開発と自己研鑽
24 チームマネジメント　福祉サービスと事業所組織
25 チームマネジメント　事業所組織の機能と役割
26 チームマネジメント　事業所組織の機能と役割
27 チームマネジメント　事業所組織の経営
28 チームマネジメント　地域におけるチームマネジメント
29 チームマネジメント　業務課題の発見と解決の方法
30 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新　介護福祉士養成講座 「コミュニケーション技術」中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
人間の生活と社会保障（にんげんのせいかつとしゃかいほしょう）	講義	寺尾正之（てらお まさゆき）　相野谷安隆（あいの や やすたか）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

個や集団、社会の単位で人間を理解する視点を養い、生活と社会の関係性を体系的に捉える学習とする。また、日本の社会保障の基本的な考え方、しくみについて理解する学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・個人・家族・地域・社会のしくみと、地域における生活の構造について学び、生活と社会の関わりや自助・互助・共助・公助の展開について理解できる。
・社会保障制度の基本的な考え方としくみを理解するとともに、社会保障の現状と課題を捉えることができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 社会と生活のしくみ　人間の尊厳と人権
3 社会と生活のしくみ　家族の基本機能
4 社会と生活のしくみ　家族、地域
5 社会と生活のしくみ　生活支援と福祉
6 社会と生活のしくみ　社会・組織、社会構造の変容
7 社会保障制度 社会保障制度の理念
8 社会保障制度 社会保障制度の役割
9 社会保障制度 社会保障制度の発達
10 社会保障制度 社会保障制度における「自立」
11 社会保障制度 低所得者支援と介護
12 社会保障制度 公的扶助制度と介護
13 総復習と最終試験対策
14 まとめと最終試験
15 試験解答・解説/総括

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新　介護福祉士養成講座「社会の理解」 中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
社会保障と制度（しゃかいほしょうとせいど）	講義	寺尾正之（てらお まさゆき）　相野谷安隆（あいのや やすたか）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

高齢者福祉、障害者福祉及び権利擁護等の制度・施策について、介護実践に必要な観点から、基礎的な知識を習得する学習とする。また、対象者の生活の場としての地域という観点から、地域共生社会や地域包括ケアの基礎的な知識を習得する学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・人間の尊厳と自立に関わる権利擁護や個人情報保護等、介護実践に関連する制度・施策の基本的な考え方としくみを理解できる。
・高齢者福祉制度の基本的な考え方としくみ、介護保険制度の内容を理解し、高齢者福祉の現状と課題を捉えることができる。
・障害者福祉制度の基本的な考え方としくみ、障害者総合支援法の内容を理解し、障害者福祉の現状と課題を捉えることができる。
・地域共生社会や地域包括ケアシステムの基本的な考え方としくみ、その実現のための制度・施策を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 社会保障制度 社会保障制度のしくみ
3 社会保障制度 社会保険と社会扶助の違い
4 介護実践に関連する諸制度　保険制度概要
5 高齢者福祉と介護保険制度 介護保険制度のしくみの基礎的理解
6 高齢者福祉と介護保険制度 介護保険制度における組織団体の役割
7 高齢者福祉と介護保険制度 介護保険制度における専門職の役割
8 高齢者福祉と介護保険制度 社会保障制度における障害者基本法について
9 障害者福祉と障害者保健福祉制度　障害者基本法について
10 障害者福祉と障害者保健福祉制度　障害者総合支援法について
11 障害者福祉と障害者保健福祉制度　障害者総合支援法のしくみ
12 障害者福祉と障害者保健福祉制度　障害者総合支援制度における組織団体の役割
13 地域共生社会の実現に向けた制度や施策
14 地域共生社会の実現に向けた制度や施策
15 試験　解答・解説/国試に向けてまとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新　介護福祉士養成講座「社会の理解」 中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者		
生活保護入門(せいかつほごにゅうもん)	講義	平井勝(ひらいまさる)	実務経験教員による授業	○
授業の回数	**時間数(単位数)**	**配当学年・時期**	**必修・選択**	
15回	30時間	1年・通年	必修	

【授業の目的・ねらい】

「生活保護」を基軸に、生活保護の背景にある、日本の貧困や格差問題等についても理解を深めます。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

命にかかわる大切な制度である「生活保護」について、実際の事例等をもとに、正確な知識を身につけることを達成課題とします。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

①生活保護制度の概要を学ぶ
②日本の貧困問題と格差
③生活保護の目的とは
④生活保護窓口対応の現実から学ぶ
⑤生活保護の事例から学ぶ　1
⑥生活保護の事例から学ぶ　2
⑦生活保護の事例から学ぶ　3
⑧⑨フイールドワーク　山谷地域見学
⑩⑪施設見学　無料低額宿泊所　立花荘
⑫介護実践に関連する諸制度　生活保護を今後の業務でどう生かすか
⑬⑭授業の振り返りとまとめ
⑮テスト

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜　講師が用意した資料を使用する。	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況を考慮して総合的に評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
人間の営み（にんげんのいとなみ）とアクティビティケア	講義	増子大道（ましこ だいどう）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

「人間」の理解をすすめるにあたっては、その人が生きてきた個人史、家族史、生活史などを理解する視点は重要である。各人に共通する歴史背景、社会背景について知り、その上でそれぞれの方々への理解を進めるための基礎とする。そして、暮らしの営みや楽しみに思いを馳せ、高齢になっても、障害をもってもより充実した人生を送っていただくことを援助するための、様々な活動としてアクティビティ・ケアの援助技術を学ぶ。

【授業終了時の達成課題】

1. 高齢者の生活史について理解できる。
2. 時代背景と生活史との関わりについて理解できる。
3. 高齢者・障害者のQOLを高めるアクティビティ・ケアについて理解できる。
4. 高齢者・障害者のQOLを高めるアクティビティ・ケアについて実践の基礎が習得できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス　レクリエーションとは何か？
2 目的に合わせたレクリエーション
3 目的に合わせたレクリエーション
4 対象に合わせたレクリエーション
5 対象に合わせたレクリエーション
6 計画書の立案演習
7 計画書の立案演習
8 計画書の評価
9 計画書の評価
10 レクリエーション実践①　オリエンテーション
11 レクリエーション実践②　見学・情報収集
12 レクリエーション実践③　見学・情報収集
13 レクリエーション実践④　実践準備
14 まとめ
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜プリント使用	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
現代社会の理解（げんだいしゃかい　りかい）	講義	東洋志（あずまようし）	実務経験教員による授業	―

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

現代社会の基礎的問題、構造を知ることで様々な社会問題を多角的に見つめ、自分自身が現代を生きる人間としての生き方について考える力を養う。その上で住み慣れた町で、その人らしく生活できる支援をしながら人権を守り、よりよい生き方のサポートとは何かを考えることができる。

【授業終了時の達成課題】

・社会問題と自分の置かれている状況が理解できる
・社会問題の構造を知り、人間としての生き方を考えることができる。
・社会問題を知ることにより、人として、介護福祉士を目指すものとして、何ができるのか考えることができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 現代社会の構造
3 現代社会と経済
4 現代社会と労働
5 現代社会と情報
6 現代社会とメディア
7 現代社会と心理
8 現代社会における地域社会（都市と地域）
9 現代社会における地域社会（都市と地域）
10 現代社会における社会問題、人権擁護
11 現代社会における社会問題、人権擁護
12 現代社会と公害 ゲスト
13 現代社会と制度
14 現代社会と超高齢社会
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜　講師が用意した資料を使用する。	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
地域生活と日本の歩み	講義	谷川悠一・竹森正孝・宇留野彩子	実務経験教員による授業	――

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	2年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

雇用の不安定化、長時間労働、ブラック企業、貧困、介護・保育不足、地域経済の衰退など、私たちの社会は多くの問題に直面しています。これらの問題はどのような規模で生じ、なぜ起きているのでしょうか。この授業では、現代日本の主要な社会問題の現状と背景を学びながら、それらを克服する社会のあり方について考えます。また、日本の問題のみならず、世界で起きているさまざまな問題についても学んでいきます。

【授業終了時の達成課題】

社会問題の現状を理解する／問題の背景を理解する／問題を克服する方向を考える

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス　はじめに－現代の労働①
2 現代の労働②
3 福祉はなぜ必要か－福祉国家①
4 福祉はなぜ必要か－福祉国家②
5 社会問題を引き起こすもの－新自由主義①
6 社会問題を引き起こすもの－新自由主義②
7 現代の貧困①
8 現代の貧困②
9 地域の雇用縮小と生活
10 地域の雇用縮小と生活
11 所得保障としての最低賃金制度
12 労働条件を変えるには？ 労働組合という方法
13 地域の生活問題を考える
14 地域の生活問題を考える
15 努力がむくわれる社会とは　授業のまとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜　講師が用意した資料を使用する。	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。出席点、授業への参加態度、レポート等を総合的に勘案する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
福祉(ふくし)ニーズと介護福祉士(かいごふくしし)	講義	宇留野彩子(うるのあやこ)・増子大道(ましこだいどう)・大澤美保(おおさわみほ)・小川愉(おがわさとし)・植村康生(うえむらやすお)	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	2年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

社会全体の流れの中で社会保障の担い手である介護福祉士に求められる役割が変わってきた。福祉ニーズにおける介護福祉士の役割の変遷を学ぶ。また、介護福祉士像として求められている内容を知り、自らの介護実習体験と校内授業を統合することにより、自らの課題を見つける力を養う。

【授業終了時の達成課題】

・介護を必要とする者に対する全人的な理解ができ、社会保障制度と人間生活に関わる知識を習得する。
・自立支援を念頭に、あらゆる介護場面に汎用できる基本的な知識を習得する。
・介護実践の根拠に不可欠なこころとからだのしくみの知識を習得する。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 ガイダンス
2 人間の尊厳と自立の理解
3 人間関係とコミュニケーションの理解
4 社会保障と諸制度の理解
5 介護の基本の理解
6 介護の基本の理解
7 生活支援技術の理解
8 生活支援技術の理解
9 コミュニケーション技術の理解
10 介護過程の理解
11 発達と老化の理解
12 認知症の理解
13 障害の理解
14 こころとからだのしくみの理解
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜プリント使用	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護情報処理Ⅰ（かいごじょうほうしょり）	演習	大澤（おおさわ）　博己（ひろみ）	実務経験教員による授業	――

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
8回	16時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

日常生活や介護業務・現場においても、パソコンは日常的に使用されており、基礎的な操作能力の習得は必須なものとなっている。利用者情報、介護計画書、経過記録等の介護記録作成、事例研究のまとめや研究発表などにも活用されている。この科目では、介護業務で必要な情報をまとめたり、情報伝達に必要なコミュニケーション能力の基礎として、パソコン及びソフトの基本操作を習得し、活用できることを目的とする。

【授業終了時の達成課題】

1. Internet活用のためのメディアリテラシーの知識を習得できる。
2. Windows10（OS）の基本的知識の習得と操作ができる。
3. Word2019の基本的知識の習得と、文章作成やその応用ができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 Internet時代のメディアリテラシー
2 Windows10の操作方法とデータ入力
3 Wordで文章作成・文章のデザイン
4 Wordでレポート作成
5 Wordで表作成と編集
6 Wordでちらし・ポスターの作成Ⅰ
7 Wordでちらし・ポスターの作成Ⅱ
8 Wordではがき文書、名刺を作成
9 総合演習

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキスト Windows10/Office2019対応版	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護情報処理Ⅱ	演習	大澤　博己	実務経験教員による授業	――

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
7回	14時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

日常生活や介護業務・現場においても、パソコンは日常的に使用されており、基礎的な操作能力の習得は必須なものとなっている。利用者情報、介護計画書、経過記録等の介護記録作成、事例研究のまとめや研究発表などにも活用されている。この科目では、介護業務で必要な情報をまとめたり、情報伝達に必要なコミュニケーション能力の基礎として、パソコン及びソフトの基本操作を習得し、活用できることを目的とする。

【授業終了時の達成課題】

1. Excelの基本的知識の習得と表作成や編集、応用ができる。
2. Excelデータベースの基本的操作ができる。
3. PowerPointを使って、プレゼンテーションができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 Excelの名称と機能を知り、一覧表を作成
2 Excelの一覧表をデザイン・レイアウト・印刷
3 Excelの基本的な表計算の方法とグラフの作成
4 Excelデータベースの基本的な操作
5 Excelの総合演習
6 PowerPointの名称と機能・スライドのデザイン編集
7 総合演習

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
例題50＋演習問題100でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint標準テキスト Windows10/Office2019対応版	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅰ	講義	宇留野彩子・増子大道・大澤美保・小川愉・各務通子・倉田めぐみ・佐藤亨	実務経験教員による授業	○
		金子広志		―

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
45回	90時間 （内、実務経験教員による授業86時	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・地域や施設・在宅の場や、介護予防や看取り、災害時等の場面や状況における、介護福祉士の役割と機能を理解できる。
・介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成することができる。
・複雑化・多様化・高度化する介護ニーズ及び介護福祉を取り巻く状況を社会的な課題として捉え、尊厳の保持や自立支援という介護福祉の基本となる理念を理解できる。
・ICF の視点に基づくアセスメントを理解し、エンパワメントの観点から、個々の状態に応じた自立を支援するための環境整備や介護予防、リハビリテーション等の意義や方法を理解できる。
・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できる。
・介護を必要とする人の生活を支援するという観点から、介護サービスや地域連携等、フォーマル・インフォーマルな支援を理解できる。
・介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解できる。
・多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 介護における安全の確保とリスクマネジメント(1)
3 介護における安全の確保とリスクマネジメント(2)
4 介護における安全の確保とリスクマネジメント(3)
5 介護福祉士の役割と機能
6 介護福祉士の役割と機能
7 介護福祉士の倫理　倫理綱領
8 介護福祉士の倫理　求められる介護福祉士像
9 介護福祉の基本となる理念
10 介護福祉の基本となる理念
11 自立に向けた介護(1)ノーマライゼーション
12 自立に向けた介護(2)ユニバーサルデザイン
13 自立に向けた介護(3)リハビリテーション
14 自立に向けた介護(4)自立とは何か　IL運動
15 まとめ(前期修了、このあとで実習Ⅱ－1へ)
16 日常生活支援の基本 福祉用具
17 日常生活支援の基本 生活環境
18 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士誕生の歴史
19 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士誕生の歴史
20 介護福祉士の役割と機能　介護福祉士誕生の歴史
21 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活習慣
22 介護を必要とする人の生活を支えるしくみ 生活習慣
23 介護を必要とする人の理解 就労支援
24 介護を必要とする人の理解　就労支援
25 介護を必要とする人の理解　就労支援
26 介護を必要とする人の理解　就労支援
27 介護を必要とする人の理解　障害者福祉関連法
28 介護を必要とする人の理解　障害者福祉関連法
29 介護を必要とする人の理解　障害者福祉関連法
30 介護を必要とする人の理解　障害者福祉関連法
31 自立に向けた介護 ICF
32 介護を必要とする人の理解　まとめ
33 介護を必要とする人の理解　まとめ
34 要介護者を支える家族支援
35 要介護者を支える家族支援
36 協働する多職種の役割と機能 チームアプローチ・同職種連携
37 協働する多職種の役割と機能 チームアプローチ・多職種連携
38 協働する多職種の役割と機能 リハビリテーション
39 協働する多職種の役割と機能　地域との連携
40 生活の理解
41 生活の理解
42 介護福祉士の倫理 プライバシーの配慮
43 介護福祉士の倫理 悪質商法
44 介護福祉士の倫理 権利擁護　成年後見制度
45 まとめ

【使用テキスト・参考文献】

最新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅰ」中央法規
最新　介護福祉士養成講座「介護の基本Ⅱ」中央法規

【単位認定の方法及び基準】

学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護の基本Ⅱ	講義	宇留野彩子・増子大道・大澤美保・小川愉・赤池智江・新美育子・森幸枝	実務経験教員による授業	○
		清水正美・金子広志		―

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
45回	90時間 （内、実務経験教員による授業66時間）	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

介護福祉の基本となる理念や、地域を基盤とした生活の継続性を支援するためのしくみを理解し、介護福祉の専門職としての能力と態度を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・多職種協働による介護を実践するために、保健・医療・福祉に関する他の職種の専門性や役割と機能を理解できる。
・介護従事者自身が心身ともに健康に、介護を実践するための健康管理や労働環境の管理について理解できる。
・介護福祉の専門性と倫理を理解し、介護福祉士に求められる専門職としての態度を形成できる。
・介護を必要とする人の生活の個別性に対応するために、生活の多様性や社会との関わりを理解できる。
・介護におけるリスクマネジメントの必要性を理解するとともに、安全の確保のための基礎的な知識や事故への対応を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 居宅サービス
3 地域密着型サービス
4 社会福祉法人・ＮＰＯ
5 協働する多職種の役割と機能　地域包括
6 介護従事者の安全　感染症対応
7 介護従事者の安全　感染症対応
8 介護福祉士の倫理　高齢者虐待
9 介護福祉士の倫理　高齢者虐待
10 介護福祉士の倫理　高齢者虐待
11 介護福祉士の倫理　高齢者虐待
12 協働する多職種の役割と機能 ケアマネジメント
13 協働する多職種の役割と機能 ケアマネジメント
14 協働する多職種の役割と機能 ケアマネジメント
15 協働する多職種の役割と機能 ケアマネジメント
16 協働する多職種の役割と機能 ケアマネジメント
17 協働する多職種の役割と機能 ケアマネジメント
18 介護を必要とする人の理解 社会福祉援助技術を使って
19 介護を必要とする人の理解 社会福祉援助技術を使って
20 介護を必要とする人の理解 社会福祉援助技術を使って
21 介護を必要とする人の理解 社会福祉援助技術を使って
22 介護を必要とする人の理解 社会福祉援助技術を使って
23 介護を必要とする人の理解 社会福祉援助技術を使って
24 介護従事者の安全　心の健康管理
25 介護従事者の安全　身体の健康管理
26 介護従事者の安全　労働安全
27 介護を必要とする人の理解 介護家族の理解と支援
28 介護を必要とする人の理解 介護家族の理解と支援
29 介護を必要とする人の理解 介護家族の理解と支援
30 まとめ
31 介護における安全の確保とリスクマネジメント(4)
32 介護における安全の確保とリスクマネジメント(5)
33 介護における安全の確保とリスクマネジメント(6)
34 介護における安全の確保とリスクマネジメント(7)
35 介護における安全の確保とリスクマネジメント(8)
36 介護における安全の確保とリスクマネジメント(9)
37 介護福祉士の倫理　ハンセン病の正しい理解
38 介護福祉士の倫理　ハンセン病回復者から学ぶ人権
39 介護福祉士の倫理　ハンセン病回復者から学ぶ人権
40 介護福祉士の倫理　ハンセン病資料館見学
41 介護福祉士の倫理　ハンセン病資料館見学
42 介護福祉士の倫理　ハンセン病資料館見学まとめ
43 介護福祉士の倫理　ハンセン病資料館見学まとめ
44 介護福祉士の倫理　ハンセン病資料館見学まとめ
45 介護福祉士の倫理　ハンセン病資料館見学まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
介護福祉士実務者研修テキスト第2巻「介護Ⅰ」（中央法規）その他、適宜プリント使用	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
コミュニケーション技術（ぎじゅつ）Ⅰ	演習	宇留野彩子（うるのあやこ）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・本人の置かれている状況を理解し、支援関係の構築や意志決定を支援するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得できる。
・家族の置かれている状況・場面を理解し、家族への支援やパートナーシップを構築するためのコミュニケーションの基本的な技術を習得できる。
・障害の特性に応じたコミュニケーションの基本的な技術を習得できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 介護を必要とする人とのコミュニケーション　(1)その意義、目的、役割①
3 介護における家族とのコミュニケーション　(1)その意義、目的、役割②
4 介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本 (2)利用者との関係づくり①
5 介護を必要とする人とのコミュニケーションの基本 (2)利用者との関係づくり②
6 介護における家族とのコミュニケーション　(3)家族との関係づくり
7 介護を必要とする人とのコミュニケーション
　(1)傾聴
8 介護を必要とする人とのコミュニケーション
　(2)感情表現を察する技法（気づき、洞察）
9 介護を必要とする人とのコミュニケーション
　(3)納得と同意を得る技法、意欲を引き出す技法
10 介護における家族とのコミュニケーション
　(4)相談、助言、指導
11 介護における家族とのコミュニケーション
　(5)利用者と家族の意向の調整を図る技法
12 障害の特性に応じたコミュニケーション
　(6)感覚機能低下の人とのコミュニケーション
13 障害の特性に応じたコミュニケーション
　(7)運動機能低下の人とのコミュニケーション
14 障害の特性に応じたコミュニケーション
　(8)認知・知覚機能低下の人とのコミュニケーション
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新　介護福祉士養成講座 「コミュニケーション技術」中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
コミュニケーション技術（ぎじゅつ）Ⅱ	演習	平松則子（ひらまつのりこ）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	2年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

対象者との支援関係の構築やチームケアを実践するためのコミュニケーションの意義や技法を学び、介護実践に必要なコミュニケーション能力を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・情報を適切にまとめ、発信するために、介護実践における情報の共有化の意義を理解し、その具体的な方法や情報の管理について理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 文章の書き方(1)日本語の基本
3 文章の書き方(2)正しい文章の書き方
4 文章の書き方(3)分りやすい文章の書き方
5 介護におけるチームのコミュニケーション
　(1)介護に関する記録の意義、目的、種類
6 介護におけるチームのコミュニケーション
　(2)記録の方法、留意点(1)
7 介護におけるチームのコミュニケーション
　(3)記録の方法、留意点(2)
8 介護におけるチームのコミュニケーション
　(4)記録の管理、介護記録の共有化
9 介護におけるチームのコミュニケーション
　(5)ITを利用した記録の意義
10 介護におけるチームのコミュニケーション
　(6)介護記録における個人情報保護
11 介護におけるチームのコミュニケーション
　(7)報告・連絡・相談の意義、目的
12 介護におけるチームのコミュニケーション
　(8)報告・連絡・相談の方法
13 介護におけるチームのコミュニケーション
　(9)会議の意義、目的、種類、方法
14 介護におけるチームのコミュニケーション
　(10)会議の意義、目的、種類、方法
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新　介護福祉士養成講座「コミュニケーション技術」中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅰ	演習	増子大道・宇留野彩子・小川榆・大澤美保・武井玲子	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
46回	92時間	1年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。生活支援技術Ⅰでは、利用者支援を学ぶ土台作りとして、「移動」「身支度」「食事」「排泄」「入浴」など、あらゆる生活行為を成り立たせているこころとからだの働きに気づくこと、人間の生活と家族や住まいについて理解を深めることをねらいとする。

【授業終了時の達成課題】

・生活支援技術を学ぶ目的を理解できる。
・あらゆる生活行為を成り立たせているこころとからだの働きに気づくことができる。
・介護を必要とする人の気持ちについて、理解を深められる。
・「生活」「家族」「住まい」について、理解を深められる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 生活支援の理解
3 自立に向けた家事の介護
4 生活支援の理解・生活の理解
5 生活支援の理解・生活の理解
6 自立に向けた居住環境の整備
7 自立に向けた居住環境の整備
8 自立に向けた居住環境の整備
9 自立に向けた居住環境の整備
10 自立に向けた移動の介護
11 自立に向けた移動の介護
12 自立に向けた移動の介護
13 自立に向けた移動の介護
14 自立に向けた移動の介護
15 自立に向けた移動の介護
16 自立に向けた移動の介護
17 自立に向けた移動の介護
18 自立に向けた移動の介護
19 自立に向けた移動の介護
20 自立に向けた移動の介護
21 自立に向けた身じたくの介護
22 自立に向けた身じたくの介護
23 自立に向けた身じたくの介護
24 自立に向けた身じたくの介護
25 自立に向けた食事の介護
26 自立に向けた食事の介護
27 自立に向けた食事の介護
28 自立に向けた食事の介護
29 自立に向けた食事の介護
30 自立に向けた排泄の介護
31 自立に向けた排泄の介護
32 自立に向けた排泄の介護
33 自立に向けた排泄の介護
34 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
35 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
36 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
37 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
38 清潔保持の介護（シーツ交換）
39 清潔保持の介護（シーツ交換）
40 生活を楽しむための介護
41 生活を楽しむための介護
42 自立に向けた移動の介護
43 自立に向けた移動の介護
44 自立に向けた移動の介護
45 総合のまとめ
46 総合のまとめ

【使用テキスト・参考文献】

最新　介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ　中央法規

【単位認定の方法及び基準】

学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅱ	演習	増子大道・宇留野彩子・大澤美保・小川愉・武井玲子・多田誠一・吉元　佳子	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
60回	120時間	1年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。生活支援技術Ⅱでは、機能低下による利用者の不安や不自由な気持を理解し、自立した生活を送るための支援方法を学び実践できること、生活を送る上で必要な調理、被服、洗濯、掃除、レクリエーション、居住環境整備の基本を理解することをねらいとする。

【授業終了時の達成課題】

・ICF の視点を生活支援に活かすことの意義を理解し、生活の豊かさや心身の活性化のための支援につなげることができる。
・住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。
・対象者の能力を活用･発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識･技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。
・生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できる。
・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につなげることができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 自立に向けた移動の介護
2 自立に向けた移動の介護
3 自立に向けた移動の介護
4 自立に向けた移動の介護
5 自立に向けた移動の介護
6 自立に向けた移動の介護
7 自立に向けた移動の介護
8 自立に向けた移動の介護
9 自立に向けた移動の介護
10 自立に向けた移動の介護
11 自立に向けた移動の介護
12 自立に向けた身じたくの介護
13 自立に向けた身じたくの介護
14 自立に向けた身じたくの介護
15 自立に向けた身じたくの介護
16 自立に向けた身じたくの介護
17 自立に向けた身じたくの介護
18 自立に向けた身じたくの介護
19 自立に向けた食事の介護
20 自立に向けた食事の介護
21 自立に向けた食事の介護
22 自立に向けた食事の介護
23 自立に向けた食事の介護
24 自立に向けた排泄の介護
25 自立に向けた排泄の介護
26 自立に向けた排泄の介護
27 自立に向けた排泄の介護
28 自立に向けた排泄の介護
29 自立に向けた排泄の介護
30 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
31 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
32 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
33 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
34 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
35 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
36 自立に向けた家事の介護
37 自立に向けた家事の介護
38 自立に向けた家事の介護
39 自立に向けた家事の介護
40 自立に向けた居住環境の整備
41 自立に向けた居住環境の整備
42 自立に向けた居住環境の整備
43 自立に向けた居住環境の整備
44 自立に向けた家事の介護 調理
45 自立に向けた家事の介護 調理
46 自立に向けた家事の介護 調理
47 自立に向けた家事の介護 調理
48 自立に向けた家事の介護 調理
49 自立に向けた家事の介護 調理
50 レクリエーション
51 レクリエーション
52 レクリエーション
53 レクリエーション
54 自立に向けた移動の介護
55 自立に向けた移動の介護
56 自立に向けた休息・睡眠の介護
57 総合のまとめ
58 総合のまとめ
59 総合のまとめ
60 総合のまとめ

【使用テキスト・参考文献】

最新　介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ　中央法規

【単位認定の方法及び基準】

学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
生活支援技術Ⅲ（せいかつしえんぎじゅつ）	演習	増子大道（ましこだいどう）・宇留野彩子（うるのあやこ）・大澤美保（おおさわみほ）・小川愉（おがわさとし）・武井玲子（たけいれいこ）・田口稔己（たぐちとしみ）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
74回	148時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。生活支援技術Ⅲでは、複合的な機能低下などあらゆる場面において、補助器具や環境整備含め、利用者が主体的な生活を送ることを実現するための支援について学び実施できることをねらいとする。人生の最終段階における介護にあたっては、利用者の幸せとは何かを捉える力を養い、利用者と家族の状況について、共感的に受け止めた支援技術を提供することを理解する。

【授業終了時の達成課題】

・介護ロボットを含め福祉用具を活用する意義やその目的を理解するとともに、対象者の能力に応じた福祉用具を選択・活用する知識・技術を習得できる。
・住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解できる。
・対象者の能力を活用・発揮し、自立に向けた生活支援の基礎的な知識・技術を習得する。また、実践の根拠について、説明できる能力を身につけることができる。
・生活の継続性を支援する観点から、対象者が個々の状態に応じた家事を自立的に行うことを支援するための、基礎的な知識・技術を習得できる。
・健康を保持するための休息や睡眠の重要性を理解し、安眠を促す環境を整える支援につなげることができる。
・人生の最終段階にある人と家族をケアするために、終末期の経過に沿った支援や、チームケアの実践について理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 福祉用具の意義と活用
2 福祉用具の意義と活用
3 福祉用具の意義と活用
4 福祉用具の意義と活用
5 福祉用具の意義と活用
6 福祉用具の意義と活用
7 福祉用具の意義と活用
8 福祉用具の意義と活用
9 福祉用具の意義と活用 リフト
10 福祉用具の意義と活用 リフト
11 福祉用具の意義と活用 リフト
12 福祉用具の意義と活用 リフト
13 自立に向けた家事の介護
14 自立に向けた家事の介護
15 自立に向けた居住環境の整備
16 自立に向けた居住環境の整備
17 自立に向けた居住環境の整備
18 自立に向けた居住環境の整備
19 自立に向けた身じたくの介護
20 自立に向けた身じたくの介護
21 自立に向けた身じたくの介護
22 自立に向けた身じたくの介護
23 福祉用具の意義と活用　吊り具
24 自立に向けた食事の介護
25 自立に向けた食事の介護
26 自立に向けた食事の介護
27 自立に向けた食事の介護
28 自立に向けた食事の介護
29 自立に向けた食事の介護
30 自立に向けた排泄の介護
31 自立に向けた排泄の介護
32 自立に向けた排泄の介護
33 自立に向けた排泄の介護
34 自立に向けた排泄の介護
35 自立に向けた排泄の介護
36 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
37 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
38 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
39 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
40 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
41 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
42 自立に向けた休息・睡眠の介護
43 自立に向けた休息・睡眠の介護
44 まとめ
45 まとめ
46 自立に向けた家事の介護 介護食
47 自立に向けた家事の介護 介護食
48 自立に向けた家事の介護 介護食
49 自立に向けた家事の介護 介護食
50 自立に向けた家事の介護 介護食
51 自立に向けた家事の介護 介護食
52 聴覚障害者の介護
53 聴覚障害者の介護
54 聴覚障害者の介護
55 聴覚障害者の介護
56 視覚障害者の介護
57 視覚障害者の介護
58 視覚障害者の介護
59 視覚障害者の介護
60 応急手当について
61 災害時における生活支援
62 知的障害に応じた介護
63 精神障害に応じた介護
64 発達障害に応じた介護
65 高次脳機能障害に応じた介護
66 重複障害＜盲ろう＞に応じた介護
67 重複障害＜重症心身障害＞に応じた介護
68 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
69 自立に向けた入浴・清潔保持の介護
70 人生の最終段階における介護
71 人生の最終段階における介護
72 人生の最終段階における介護
73 総合のまとめ
74 総合のまとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
介護福祉士実務者研修テキスト第2巻「介護Ⅰ」（中央法規）　「ポリ袋で作り置きレシピ」（宝島社）	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護過程Ⅰ	演習	宇留野彩子・小川愉 大澤美保・増子大道	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程Ⅰでは、利用者理解を図りながら、必要な情報収集を行い、その情報の分析・解釈に基づいて介護内容や方法を計画し、実施・評価する一連の過程を理解する。

【授業終了時の達成課題】

・介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できる。
・個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげることができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 ガイダンス
2 介護過程の意義と基礎的理解
3 介護過程の展開の理解　介護過程の展開とは
4 介護過程の展開の理解 アセスメント
5 介護過程の展開の理解 情報の収集
6 介護過程の展開の理解 情報の収集
7 介護過程の展開の理解 情報の収集
8 介護過程の展開の理解 情報の分析
9 介護過程の展開の理解 情報の分析
10 介護過程の展開の理解 課題の抽出
11 介護過程の展開の理解 課題の抽出
12 介護過程の展開の理解 課題の抽出
13 介護過程の展開の理解 課題の抽出
14 介護過程の展開の理解 課題の抽出
15 総合のまとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜プリント使用	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護過程Ⅱ	演習	宇留野彩子・大澤美保・増子大道・小川愉	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
30回	60時間	1年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程Ⅱでは、事例演習を多く取り入れ、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価について理解する。

【授業終了時の達成課題】

・利用者がどのような問題をもっているか判断し、その根拠について説明できる。
・発生している課題の原因を分析し、その根拠について説明できる。
・問題の解決に向けた介護目標を、現実的で、理解でき、行動でき、測定でき、到達可能な表現で書き表すことができる。
・介護目標の達成に向けた介護方法を、どのスタッフがみても同じ支援が提供できるよう、４W＋１Hで書き表すことができる。
・利用者の尊厳、利用者の不安軽減に留意した介護過程を展開できる。
・利用者の潜在能力を引き出し、活用・発揮できる介護過程を展開できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 実習事例の検討 事実と判断を区別する
2 実習事例の検討 事実と判断を区別する
3 実習事例の検討 利用者の現状を分析する
4 実習事例の検討 利用者の現状を分析する
5 実習事例のまとめ
6 実習事例のまとめ
7 介護過程の展開の理解　アセスメント
ICFを用いたアセスメント
8 介護過程の展開の理解　アセスメント
ICFを用いたアセスメント
9 介護過程の展開の理解　アセスメント
ICFを用いたアセスメント
10 介護過程の展開の理解　アセスメント
ICFを用いたアセスメント
11 介護過程の展開の理解　アセスメント
課題の表現方法
12 介護過程の展開の理解　介護目標の立案
介護計画の意義と介護計画に記入すべき要素
13 介護過程の展開の理解　介護目標の立案
介護目標の設定
14 介護過程の展開の理解　介護目標の立案
介護目標の設定
15 介護過程の展開の理解　介護方法の立案
16 介護過程の展開の理解 介護方法の立案
介護方法の設定
17 介護過程の展開の理解 介護方法の立案
介護方法の設定
18 介護過程の展開の理解 介護護計画の評価
評価の意義と介護過程における位置づけ
19 介護過程の展開の理解 介護計画の評価
評価の実際
20 介護過程の展開の理解 介護計画の修正
21 介護過程の展開の理解　実践的展開
22 介護過程の展開の理解　実践的展開
23 介護過程の展開の理解　実践的展開
24 介護過程の展開の理解　実践的展開
25 介護過程の展開の理解　実践的展開
26 介護過程の展開の理解　実践的展開
27 介護過程の展開の理解　実践的展開
28 介護過程の展開の理解　実践的展開
29 介護過程の展開の理解　実践的展開
30 総合のまとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜プリント使用	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護過程Ⅲ	演習	宇留野彩子・小川榆・大澤美保・増子大道・各務通子	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30回	60時間	2年通年	必修

【授業の目的・ねらい】

本人の望む生活の実現に向けて、生活課題の分析を行い、根拠に基づく介護実践を伴う課題解決の思考過程を習得する学習とする。介護過程Ⅲでは、実習事例による演習を多く取り入れ、個別の生活課題や潜在能力を引き出すためのアセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価、他職種協働によるチームアプローチの必要性を理解する。また、終末期における介護など、様々な状況に応じた介護過程展開の理解をねらいとする。

【授業終了時の達成課題】

・介護実践における介護過程の意義の理解をふまえ、介護過程を展開するための一連のプロセスと着眼点を理解できる。
・個別の事例を通じて、対象者の状態や状況に応じた介護過程の展開につなげることができる。
・介護サービス計画や協働する他の専門職のケア計画と個別介護計画との関係性、チームとして介護過程を展開することの意義や方法を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

1 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
2 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
3 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
4 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
5 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
6 介護過程の展開の理解・・・事例による介護過程の展開
7 介護過程の展開の理解・・・事例による介護過程の展開
8 介護過程の展開の理解・・・事例による介護過程の展開
9 介護過程の展開の理解・・・事例による介護過程の展開
10 介護過程の展開の理解・・・事例による介護過程の展開
11 介護過程の展開の理解・・・事例による介護過程の展開
12 介護過程とチームアプローチ
13 介護過程とチームアプローチ
14 介護過程の展開の理解・・・アセスメントの理解（ICFを用いた課題の把握）
15 介護過程の展開の理解・・・アセスメントの理解（ICFを用いた課題の把握）
16 介護過程の展開の理解・・・アセスメントの理解（ICFを用いた課題の把握）
17 介護過程の展開の理解・・・
18 介護過程の展開の理解・・・
19 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
20 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
21 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
22 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
23 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
24 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
25 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
26 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
27 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
28 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
29 介護過程の展開の理解・・・実習事例による介護過程の展開
30 総合のまとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
適宜プリント使用	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅰ（かいごそうごうえんしゅう）	演習	宇留野彩子（うるの あやこ）・小川愉（おがわ さとし） 大澤美保（おおさわみほ）・増子大道（ましこだいどう）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
36回	72時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。授業で学んだ事を実習で実践できるようになることが目的である。介護実習前のオリエンテーションで実習に臨む姿勢を整える。実習中の帰校日に、課題の確認や悩みの解決を行い、実習が順調に進むようにする。実習後は振り返りを通して、実習での学びを深める。個別の学習到達状況に応じた個別指導で、学生が自分のペースで学べるようにする。

【授業終了時の達成課題】

・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うこことができる。
・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解できる。

1. 介護実習の意義と目的について理解できる。
2. 実習生としての心得を理解した上で、実習に臨むことができる。
3. 介護を提供する施設の役割、介護職の役割、連携の必要性について理解できる。
4. 実習目標、達成課題を設定し、実習の目的を明確にできる。
5. 自分の実習目標に対して自己評価を行い、次の実習における課題を明確にできる。
6. 自分のコミュニケーションに関する課題を明確にし、改善できる。
7. 実習Ⅱ-1では、利用者の意向について、生活歴や時代背景などを踏まえて考えることが出来る。
8. 実習Ⅱ-2では、利用者の意向やニーズを捉え、介護過程を展開できる。
9. 実習記録の基本を理解し、適切な書き方を身につける。
10. 実習後は、振り返りのなかで学びを深め、発表を通して学生間で共有することができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス、介護実習の全体スケジュール、カリキュラムにおける介護実習の位置づけ
2 知識と技術の統合　プロセスレコードの書き方
3 知識と技術の統合　プロセスレコードの書き方
4 知識と技術の統合　実習施設に対する基本的な理解
5 知識と技術の統合　介護施設見学実習(1)
6 知識と技術の統合　介護施設見学実習(2)
7 知識と技術の統合　介護施設見学実習の振り返り
8 知識と技術の統合　介護施設見学実習の振り返り
9 知識と技術の統合　実習に行く理由を考える
10 知識と技術の統合　身だしなみを考える
11 知識と技術の統合　社会常識の不安
12 知識と技術の統合　実習個人表、目標作成
13 知識と技術の統合　物をもらうということを考える
14 知識と技術の統合　不安、悩みの解消
15 知識と技術の統合　実習日誌の書き方、課題説明
16 知識と技術の統合　実習Ⅱ-1の帰校日指導
17 知識と技術の統合　実習Ⅱ-1の帰校日指導
18 知識と技術の統合　振り返り
19 知識と技術の統合　振り返り
20 知識と技術の統合　プレゼンテーション準備
21 知識と技術の統合　実習Ⅱ-1で考えたことプレゼンテーション
22 知識と技術の統合　実習Ⅱ-1で考えたことプレゼンテーション
23 知識と技術の統合　実習Ⅱ－2ガイダンス、個人表作成
24 知識と技術の統合　実習Ⅱ－２目標作成
25 知識と技術の統合　実習Ⅱ－２課題説明
26 知識と技術の統合　実習Ⅱ－２直前オリエンテーション
27 介護実践の科学的探求　実習Ⅱ－２直前オリエンテーション
28 知識と技術の統合　実習Ⅱ-2の帰校日指導
29 介護実践の科学的探求　実習Ⅱ-2の帰校日指導
30 知識と技術の統合　実習Ⅱ-2の帰校日指導
31 介護実践の科学的探求　実習Ⅱ-2の帰校日指導
32 知識と技術の統合　振り返り
33 知識と技術の統合　振り返り
34 知識と技術の統合　プレゼンテーション準備
35 知識と技術の統合　実習Ⅱ－２報告会
36 介護実践の科学的探求　実習Ⅱ－２報告会

【使用テキスト・参考文献】

適宜、プリントを使用

【単位認定の方法及び基準】

学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。実習に関する提出物や実習課題の提出状況、授業態度などを考慮して総合的に評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護総合演習Ⅱ（かいごそうごうえんしゅう）	演習	宇留野彩子（うるの あやこ）・小川榆（おがわ さとし） 大澤美保（おおさわみほ）・増子大道（ましこ だいどう）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
35回	70時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

介護実践に必要な知識と技術の統合を行うとともに、介護観を形成し、専門職としての態度を養う学習とする。授業で学んだ知識を踏まえた介護を、実習において実践できることが目的である。介護実習前のオリエンテーションで実習に臨む姿勢を整える。実習中の帰校日に、課題の確認や悩みの解決を行い、実習が順調に進むようにする。実習後は振り返りを通して、実習での学びを深める。実習Ⅱ-3の事例検討で、自分の介護の理論的根拠を振り返り、適切な介護のために必要なことを考えることが出来る。

【授業終了時の達成課題】

・実習の教育効果を上げるため、事前に実習施設についての理解を深めるとともに、各領域で学んだ知識と技術を統合し、介護実践につなげることができる。
・実習を振り返り、介護の知識や技術を実践と結びつけて統合、深化させるとともに、自己の課題を明確にし専門職としての態度を養うこことができる。
・質の高い介護実践やエビデンスの構築につながる実践研究の意義とその方法を理解できる。

1. 利用者の生活について理解する。
2. 実習Ⅰを通して、居宅介護サービスの役割を理解できる。
3. 介護を提供する施設の役割、介護職の役割、多職種連携の必要性について理解できる。
4. 実習目標、達成課題を設定し、実習の目的を明確にできる。
5. 自分の実習目標に対して自己評価を行い、次の実習における課題を明確にできる。
6. 実習Ⅱ-3では、利用者の意向やニーズを捉えた介護過程の展開ができる。
7. 実習記録の留意点を理解し、必要に応じた記録ができる。。
8. 事例検討の意義を理解し、実習課題に協力していただいた利用者の事例検討ができる。
9. 事例発表を通して学生間で学びを共有することができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 知識と技術の統合　地域における暮らしの理解
2 知識と技術の統合　介護実習Ⅰの目標設定(1)
3 知識と技術の統合　介護実習Ⅰの目標設定(2)
4 知識と技術の統合　介護実習Ⅰの実習課題の書き方
5 知識と技術の統合　プロセスレコードの書き方
6 知識と技術の統合　実習日誌の書き方説明、介護実習Ⅰ直前オリエンテーション
7 知識と技術の統合　介護実習Ⅰ前半のまとめ(1)
8 知識と技術の統合　介護実習Ⅰ前半のまとめ(2)
9 知識と技術の統合　介護実習Ⅰ後半のまとめ(1)
10 知識と技術の統合　介護実習Ⅰ後半のまとめ(2)
11 知識と技術の統合　介護実習Ⅰのまとめ
12 知識と技術の統合　生活者としての利用者の理解
13 知識と技術の統合　生活者としての利用者の理解
14 知識と技術の統合　介護実習Ⅱ-3実習目標の設定(1)
15 知識と技術の統合　介護実習Ⅱ-3実習目標の設定(2)
16 知識と技術の統合　振り返り
17 知識と技術の統合　振り返り
18 知識と技術の統合　介護実習Ⅱ-3の実習課題の書き方説明
19 知識と技術の統合　プロセスレコードの書き方
20 知識と技術の統合　介護実習Ⅱ-3の実習課題の書き方、介護実習Ⅱ-3直前オリエンテーション
21 知識と技術の統合　介護実習Ⅱ-3の帰校日指導(1)
22 介護実践の科学的探求　介護実習Ⅱ-3の帰校日指導(2)
23 知識と技術の統合　介護実習Ⅱ-3の帰校日指導(3)
24 介護実践の科学的探求　介護実習Ⅱ-3の帰校日指導(4)
25 介護実践の科学的探求　介護実習Ⅱ-3のまとめ
26 介護実践の科学的探求　介護実習Ⅱ-4のまとめ
27 知識と技術の統合　振り返り
28 介護実践の科学的探求　事例検討
29 介護実践の科学的探求　事例検討
30 介護実践の科学的探求　事例検討
31 介護実践の科学的探求　事例検討
32 介護実践の科学的探求　事例検討
33 介護実践の科学的探求　事例検討
34 介護実践の科学的探求　事例検討
35 介護実践の科学的探求　事例検討

【使用テキスト・参考文献】

適宜、プリントを使用

【単位認定の方法及び基準】

学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。実習に関する提出物や実習課題の提出状況、授業態度などを考慮して総合的に評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護実習Ⅰ	実習	宇留野彩子・小川愉 大澤美保・増子大道	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
	80時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

地域における様々な場において、利用者一人ひとりの生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、個別ニーズに合わせた支援を行うため、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。また、日常生活を豊かにするための各種の住環境設備や介護機器の知識と活用方法、 介護を担っている家族の援助、介護指導の方法について学ぶ。

【授業終了時の達成課題】

・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶことができる。
・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶことができる。
・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶことができる。
・利用者の家族の思いを知り、家族に対する援助、介護指導の方法を理解することができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

①<u>介護過程の実践的展開</u>
②<u>多職種協働の実践</u>
③<u>地域における生活支援の実践</u>

利用者の情報を、事業所の記録や職員からの申し送り、利用者と直接コミュニケーションをとることなどから整理し、1人ひとりの生活形態、生活ニーズを明確にする。
実習指導者の指示に従い、利用者の介護を実践する。実践した介護が、利用者のニーズを実現するものであるかどうか、振り返りを行い、わかったことを実習日誌や課題用紙を活用してまとめる。
介護計画に沿って、それぞれの専門職がどのように役割分担をしケアを提供しているのか、チームケアの場面にも参加する。
実習事業所や利用者自身が、その地域とどのような関わりを持っているのかに興味を持ち、積極的に利用者本人や職員、地域住民とのコミュニケーションの場面に参加する。

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
	学則に定める実習時間数の4/5以上の出席を要す。 実習日誌や実習課題の提出状況、実習態度などを考慮して総合的に評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護実習Ⅱ-1	実習	宇留野彩子・小川愉 大澤美保・増子大道	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
	64時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。また本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程の一連の流れを理解する。

【授業終了時の達成課題】

・利用者とのコミュニケーションにより、利用者の意向や思いを知り、利用者の日々の生活を理解することができる。
・基本介護技術を体験し、自己の介護技術の課題を発見することができる。
・施設職員の職種や機能・役割を知る。
・介護福祉士としての基本的な態度ができる。
・プライバシー保護と守秘義務について実践できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

①介護過程の実践的展開
②多職種協働の実践
③地域における生活支援の実践

・施設の日課と利用者の日々の生活（過ごし方）を把握する。
・利用者の意向や思いにはどのようなものがあるか観察やコミュニケーションを通じ理解する。
・基礎的な介護方法の概要を学ぶ。
・施設職員の職種や機能・役割の概要を知る。
・挨拶や言葉遣いなどを通して介護福祉士としての基本的な態度を養う。
・プライバシー保護と守秘義務について実践する。

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
	学則に定める実習時間数の4/5以上の出席を要す。実習日誌や実習課題の提出状況、実習態度などを考慮して総合的に評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護実習Ⅱ-2	実習	宇留野彩子・小川愉 大澤美保・増子大道	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
	160時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するため、 施設職員の指導の下に介護過程の展開、介護計画立案・評価を行うことができる。
・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶことができる。
・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援の実践にふれる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

①介護過程の実践的展開
②多職種協働の実践
③地域における生活支援の実践

・個々の利用者の日常生活を理解し、自立を支援し必要な部分について介護を行う。
・自己のコミュニケーションの課題を明確にし、技法を習得する。
・利用者の生活を知り、生活ニーズについて把握する。
・ケアマネジメントと個別介護計画の基本を理解する。
・介護技術を担当職員の見守りの下で実践する。
・受け持ちの利用者を決め、実習指導者の指導の下、介護過程の展開を行い介護計画立案から評価までを行う。
・施設職員が連携して利用者支援を行う意義を知る。
・主な疾病と応急処置の概要を学ぶ。

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
	学則に定める実習時間数の4/5以上の出席を要す。実習日誌や実習課題の提出状況、実習態度などを考慮して総合的に評価する。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
介護実習Ⅱ-3	実習	宇留野彩子・小川愉 大澤美保・増子大道	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
	168時間	2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

地域における様々な場において、対象者の生活を理解し、本人や家族とのコミュニケーションや生活支援を行う基礎的な能力を習得する学習とする。本人の望む生活の実現に向けて、多職種との協働の中で、介護過程を実践する能力を養う学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・介護過程の展開を通して対象者を理解し、本人主体の生活と自立を支援するための介護過程を実践的に学ぶことができる。
・多職種との協働の中で、介護福祉士としての役割を理解するとともに、サービス担当者会議やケースカンファレンス等を通じて、多職種連携やチームケアを体験的に学ぶことができる。
・対象者の生活と地域との関わりや、地域での生活を支える施設・機関の役割を理解し、地域における生活支援を実践的に学ぶことができる。
・行事、レクリエーションなどの企画立案・実施について理解することができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

①<u>介護過程の実践的展開</u>
②<u>多職種協働の実践</u>
③<u>地域における生活支援の実践</u>

1. 心身両面での自立支援について理解し、場面に応じた介護・援助する。
2. 利用者の生活を知り、生活ニーズに応じた介護技術、介護過程の展開が実践する。
3. 介護計画を立案、実践、評価し、評価を踏まえ計画を修正する。
4. 各施設職員が連携して利用者の支援を行う場面（各種会議など）に参加する。
5. 介護技術のうち反復する内容は、自ら実践する。
6. 夜間の介護実習、変則時間帯の実習を行うことで、利用者の生活全体を理解する。
7. 行事、レクリエーションなどを企画立案・実施する。

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
	学則に定める実習時間数の4/5以上の出席を要す。実習日誌や実習課題の提出状況、実習態度などを考慮して総合的に評価する。

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅠ	講義	大澤美保（おおさわみほ）・平松謙一（ひらまつけんいち）	実務経験教員による授業	○
授業の回数	**時間数（単位数）**	**学年・時期**	**必修・選択**	
15回	30時間	1年・前期	必修	

【授業の目的・ねらい】

こころとからだの両面から利用者の状態をみて、その状態を引き起こす要因や、根拠となる知識について学ぶ。こころとからだは相互に影響し合い、意欲や行動などに影響を及ぼすことを学ぶ。
また、介護実践を行う上で基本となる利用者の尊厳、尊重と自立とは何かを考える能力を養う。
さらに、基本的な人体の構造や機能について学び、その人が望む環境の中で安全に「活動」「参加」し続けられるよう支援できる介護の基礎を学ぶ。

【授業終了時の達成課題】

・介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できる　・介護実践に必要な観察力、判断力の基盤となる人間の心理、人体の構造と機能の基礎的な知識を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

1　授業ガイダンス
2　こころのしくみの理解・・・健康の理解と健康観
3　こころのしくみの理解・・・人間の欲求について
4　こころのしくみの理解・・・自己実現と尊厳、心のしくみの基礎・脳・認知・学習
5　こころのしくみの理解・・・こころのしくみの基礎・記憶・思考・意欲・感情・適応
6　からだのしくみの理解・・・からだの構造と部位の名前
7　からだのしくみの理解・・・筋肉・骨・関節の名前とはたらき
8　からだのしくみの理解・・・脳・神経の構造とはたらき
9　からだのしくみの理解・・・感覚器・について
10　からだのしくみの理解・・・呼吸器・循環器について
11　からだのしくみの理解・・・消化器について
12　からだのしくみの理解・・・泌尿器・生殖器・内分泌について
13　からだのしくみの理解・・・血液・体液・リンパについて
14　からだのしくみの理解・・・生命維持と恒常性・薬について
15　こころとからだのしくみⅠ　総合まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新・介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
こころとからだのしくみⅡ	講義	大澤美保（おおさわ みほ）・平松謙一（ひらまつ けんいち）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
45回	90時間	1年・後期　2年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

こころとからだの両面から利用者の状態をみて、その状態を引き起こす要因や、根拠となる知識について学ぶ。こころとからだは相互に影響し合い、意欲や行動などに影響を及ぼすことを学ぶ。
また、介護実践を行う上で基本となる利用者の尊厳、尊重と自立とは何かを考える能力を養う。
さらに、基本的な人体の構造や機能について学び、その人が望む環境の中で安全に「活動」「参加」し続けられるよう支援できる介護の基礎を学ぶ。

【授業終了時の達成課題】

・生活支援を行う際に必要となる基礎的な知識として、生活支援の場面に応じた、こころとからだのしくみ及び機能低下や障害が生活に及ぼす影響について理解できる。
・人生の最終段階にある人と家族を支援するため、終末期の心身の変化が生活に及ぼす影響について学び、生活支援を行うために必要となる基礎的な知識を理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

1 移動に関連したこころとからだのしくみ・・・生理的意味、ボディーメカニクス
2 移動に関連したこころとからだのしくみ・・・重心、バランス、良肢位、関節可動域
3 移動に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
4 移動に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
5 移動に関連したこころとからだのしくみ・・・変化の気づきと観察の視点・対応と医療連携
6 身じたくに関連したこころとからだのしくみ・・・身じたくについての基本的理解・顔の構造と機能
7 身じたくに関連したこころとからだのしくみ・・・眼・耳・鼻のつくりと働き
8 身じたくに関連したこころとからだのしくみ・・・爪・毛髪・口腔・歯のつくりと働き
9 身じたくに関連したこころとからだのしくみ・・・舌のしくみと働き・各部位の清潔について
10 身じたくに関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
11 身じたくに関連したこころとからだのしくみ・・・変化の気づきと観察の視点・対応と医療連携
12 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・食事の意味
13 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・栄養について、食欲について
14 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・嚥下のしくみ、消化吸収について
15 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
16 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響（視覚障害・運動麻痺）
17 食事に関連したこころとからだのしくみ・・・変化の気づきと観察の視点・対応と医療連携
18 まとめ
19 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・入浴・清潔の意味とこころに及ぼす影響
20 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・皮膚・毛髪のしくみと陰部の清潔
21 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・入浴が及ぼす作用
22 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
23 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
24 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみ・・・変化の気づきと観察の視点・対応と医療連携
25 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・生理的意味、排泄動作について
26 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・排尿のしくみと正常な排尿
27 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・排便のしくみと正常な排便
28 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
29 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
30 排泄に関連したこころとからだのしくみ・・・変化の気づきと観察の視点・対応と医療連携
31 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ・・・生理的意味
32 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ・・・睡眠のしくみ
33 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ・・・機能低下が及ぼす影響
34 休息・睡眠に関連したこころとからだのしくみ・・・変化の気づきと観察の視点・対応と医療連携
35 まとめ
36 異常の早期発見と、応急処置
37 薬の基礎知識　服薬支援
38 医療用語の理解
39 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・死の捉え方、死の定義、尊厳死とリビングウィル
40 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・終末期の定義、終末期の心身の変化、死の徴候
41 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・脳死と植物状態、死後の身体変化、死後の処置
42 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・死の受容過程
43 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・家族への支援、グリーフケア
44 人生の最終段階のケアに関連したこころとからだのしくみ・・医療職との連携
45 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新・介護福祉士養成講座11「こころとからだのしくみ」	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
発達と老化の理解	講義	大澤美保・玉井沙欧里	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
30回	60時間	1年・通年	必修

【授業の目的・ねらい】

人間の成長と発達の過程における、身体的・心理的・社会的変化及び老化が生活に及ぼす影響を理解し、ライフサイクルの特徴に応じた生活を支援するために必要な基礎的な知識を習得する学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・人間の成長と発達の基本的な考え方を踏まえ、ライフサイクルの各期（乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期）における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題及び特徴的な疾病について理解する内容とする。
・老化に伴う身体的・心理的・社会的な変化や、高齢者に多く見られる疾病と生活への影響、健康の維持・増進を含めた生活を支援するための基礎的な知識を理解する内容とする。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 人間の成長と発達の基礎的理解
3 発達段階と課題
4 ０歳児における成長と発達
5 乳幼児期における成長と発達
6 児童期における成長と発達
7 思春期における成長と発達
8 青年期前半における成長と発達
9 青年期後半における成長と発達
10 壮年期前半における成長と発達
11 壮年期後半における成長と発達
12 老年期の発達と成熟
13 老年期の発達課題
14 高齢者の心理
15 介護者の心理
16 まとめ
17 乳幼児期における成長と発達
18 乳幼児期における成長と発達　保育園実習
19 乳幼児期における成長と発達　保育園実習
20 老化に伴うこころとからだの変化と生活
身体機能の変化と日常生活への影
21 老化に伴うこころとからだの変化と生活
身体機能の変化と日常生活への影響
22 老化に伴うこころとからだの変化と生活
知的機能の変化と日常生活への影響
23 高齢者と健康
症状・疾患の特徴
24 高齢者と健康
①多い疾患・症状と生活上の留意点
25 ②多い疾患・症状と生活上の留意点
26 ③多い疾患・症状と生活上の留意点
27 ④多い疾患・症状と生活上の留意点
28 ⑤多い疾患・症状と生活上の留意点
29 介護予防、保健医療職との連携
30 まとめ

【使用テキスト・参考文献】

最新　介護福祉士養成講座12
「発達と老化の理解」中央法規

【単位認定の方法及び基準】

学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
認知症の理解Ⅰ	講義	増子大道・平松謙一・玉井沙欧里	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・認知症のケアの歴史や理念を含む、認知症を取りまく社会的環境について理解できる。
・医学的・心理的側面から、認知症の原因となる疾病及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解し、生活支援を行うための根拠となる知識を理解できる。・

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 認知症を取り巻く状況 歴史と理念
3 認知症を取り巻く状況 心理的側面から見た家族理解
4 認知症を取り巻く状況 心理的側面から見た介護職員理解
5 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症による障害
6 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症による障害
7 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症と間違えられやすい症状
8 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症の原因となる主な病気と症状の特徴
9 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症の原因となる主な病気と症状の特徴
10 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症の原因となる主な病気と症状の特徴
11 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　認知症の原因となる主な病気と症状の特徴
12 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　若年性認知症
13 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　病院で行われる検査、治療
14 認知症の医学的・心理的側面の基礎的理解　予防
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解」	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
認知症の理解Ⅱ	講義	増子大道・宇留野彩子	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	2年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

認知症のある人の心の変化、生活面への影響、支える家族の心の変化や生活面への影響について理解し、その支援のあり方を思考できる知識を身につける。
認知症のある人が尊厳を持ち、「その人らしく」暮らしていくために、支援にあたる人たちの認知症の病気の理解と日常生活への影響を理解し、それら行動・心理症状を緩和するための個々のケアのあり方について学ぶ。

【授業終了時の達成課題】

・認知症の人の生活及び家族や社会との関わりや認知症の人が置かれている環境や地域資源について理解できる。
・その人の特性を踏まえたアセスメントを行い、本人主体の理念に基づいた認知症ケアの実践に繋げることができる。
・認知症の人の生活を地域で支えるサポート体制や多職種連携・協働による支援の基礎的な知識を理解できる。
・認知症の人の介護者の心理を知り、家族や介護福祉職にどのような支援が必要かが理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 認知症の理解Ⅱの授業ガイダンスと1年次の認知症の理解Ⅰの振り返り
2 認知症の中核症状　　行動・心理症状（BPSD）
3 認知症の中核症状　　行動・心理症状（BPSD）
4 認知症の中核症状　　行動・心理症状（BPSD）
5 認知症の人の心理と当事者の話（丹野智文・さとうみき）でレポート10点
6 認知症ケアの実践①（アセスメントとコミュニケーション）
7 家族支援
8 家族支援
9 認知症の人の地域生活支援
10 認知症ケアの実践②（場面ごとのケア）
11 多職種連携と協働
12 認知症ケアの実践③（ユマニチュード）
13 介護福祉職への支援
14 上期のまとめ
15 テスト　　90点分　テキストなど持ち込み不可
レポート10点分と90点分、合計100店で成績をつけます

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新・介護福祉士養成講座13「認知症の理解」	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
障害の理解Ⅰ（しょうがいりかい）	講義	大澤美保（おおさわみほ）・小川愉（おがわさとし） 平松謙一（ひらまつけんいち）・佐藤亨（さとうとおる）	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・前期	必修

【授業の目的・ねらい】

障害のある人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、障害のある人の地域での生活を理解し、本人のみ
ならず家族や地域を含めた周囲の環境への支援を理解するための基礎的な知識を習得する学習とする。

【授業終了時の達成課題】

・障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。
・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。
・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOL を高める支援につなげることができる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 授業ガイダンス
2 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識
　視覚障害の種類と原因と特性
3 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
　視覚障害の種類と原因と特性
4 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識
　聴覚障害、言語機能障害の種類と特性
5 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
　聴覚障害、言語機能障害の種類と特性
6 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識
　精神障害の種類と原因と特性
7 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識
　精神障害の種類と原因と特性
8 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
　精神障害の種類と原因と特性
9 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識
　知的障害・発達障害の種類と原因と特性
10 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
　知的障害・発達障害の種類と原因と特性
11 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識
　肢体不自由の種類と原因と特性
12 障害の基礎的理解
　障害の捉えかた、国際障害分類から国際生活機能分類へ
13 障害の基礎的理解
　障害者福祉の基本理念
14 障害の基礎的知識
　障害者福祉の歴史
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新介護福祉士養成講座14　「障害の理解」 中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授　業　概　要

授業タイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
障害の理解Ⅱ	講義	大澤美保・宇留野彩子・小川愉	実務経験教員による授業	○

授業の回数	時間数（単位数）	学年・時期	必修・選択
15回	30時間	1年・後期	必修

【授業の目的・ねらい】

障がいのある人の体験を理解した上で、障がいが及ぼす心理的影響や障がいの受容、日常生活への影響を学ぶ。また障がいのある人の特性を踏まえたアセスメントを行い、自立へ向けた支援を行うために、地域におけるサポート体制や多職種協働のあり方、家族への支援についても学習する。

【授業終了時の達成課題】

・障害のある人の生活を支援するという観点から、障害の概念や、障害の特性に応じた制度の基礎的な知識を理解できる。
・医学的・心理的側面から、障害による心身への影響や心理的な変化を理解できる。
・障害のある人のライフステージや障害の特性を踏まえ、機能の変化が生活に及ぼす影響を理解し、QOL を高める支援につなげることができる。
・障がいのある人の意欲や主体的な行動を支え、その家族ともかかわり、地域で安心して暮らしていけるように、本人、家族の立場に立った生活支援について理解できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

1 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（心臓）
2 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（呼吸器）
3 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（腎臓）
4 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（膀胱直腸）
5 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（小腸）
6 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（免疫）
7 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 内部障害の種類と原因と特性（肝臓）
8 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 （難病の種類と原因と特性）
9 障害の医学的・心理的側面の基礎的知識 （高次脳機能障害の種類と原因と特性）
10 障害の医学的・心理的側面の基礎知識 （重複障害の種類と原因と特性）
11 障害の医学的・心理的側面の基礎知識 （重症心身障害の種類と原因と特性）
12 連携と協働　地域におけるサポート体制・保健医療福祉との連携　多職種連携とチームアプローチ
13 障害のある人の生活と障害の特性に応じた支援
14 家族への支援　家族の障害の受容の過程での援助・介護力評価・家族のレスパイト
15 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新介護福祉士養成講座14　「障害の理解」 中央法規	学則に定める授業時間数の2/3以上の出席を要す。 試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授業概要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者		
医療的ケア(いりょうてき)	講義	大澤美保(おおさわ みほ)・早川ゆい(はやかわ)	実務経験教員による授業	○
授業の回数	**時間数(単位数)**	**配当学年・時期**	**必修・選択**	
34回	68時間	2年・通年	必修	

【授業の目的・ねらい】

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。
1年次に学習した生理学をもとに呼吸器、消化器の構造を復習する。また、関連する法制度や倫理、関連職種の役割、救急蘇生法、感染予防及び健康状態の把握などの基礎的知識を習得する。

【授業終了時の達成課題(到達目標)】

・医療的ケアの実施に関する制度の概要及び医療的ケアと関連づけた「個人の尊厳と自立」、「医療的ケアの倫理上の留意点」、「医療的ケアを実施するための感染予防」、「安全管理体制」等についての基礎的な知識を理解することができる。
・喀痰吸引および経管栄養について根拠に基づく手技が実施できるよう、基礎的な知識、実施手順方法を理解することができる。
・個人の尊厳と自立、利用者や家族の気持ちについて理解し、医療的ケアに関わる諸制度、倫理の説明ができる。医療的ケアの基礎を学ぶことにより安全、救急対応、危険、対策等説明できる。
安全管理体制確保から片付けまでを理解し、ひとつひとつの行為の根拠を説明できる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

1 オリエンテーション <u>医療的ケア実施の基礎</u>
2 人間と社会(個人の尊厳と自立、医療の倫理、利用者や家族の気持ちの理解)
3 保険医療制度とチーム医療(制度、法律、チーム医療)
4 安全な療養生活、健康状態の把握(身体、精神の健康、項目急変状態、救急蘇生法)
5 清潔保持と感染予防(職員、環境、消毒方法)
6 清潔保持と感染予防(職員、環境、消毒方法)
7 <u>喀痰吸引の基礎的知識</u>(高齢者及び障害児・者の「喀痰吸引」)
8 たんの吸引、人工呼吸器、非侵襲的人工呼吸療法
9 子どもの吸引について(利用者や家族の気持ちと対応)
10 呼吸器系の感染と予防、喀痰吸引による危険の種類
11 ヒヤリハット・アクシデント、危険防止のための連携
12 ヒヤリハット・アクシデント、危険防止のための連携
13 <u>経管栄養の基礎的知識</u>(高齢者及び障害児・者の「経管栄養」)
14 経管栄養法、注入内容
15 子どもの経管栄養法(利用者や家族の気持ちと対応)
16 説明と同意について
17 経管栄養によるの感染と予防、経管栄養による危険の種類
18 ヒヤリハット・アクシデント、危険防止のための連携
19 <u>喀痰吸引(実施手順)</u>
20 喀痰吸引の技術と留意点 ①
21 喀痰吸引の技術と留意点 ②
22 喀痰吸引の技術と留意点 ③
23 喀痰吸引の技術と留意点 ④
24 喀痰吸引の技術と留意点 ⑤
25 喀痰吸引の技術と留意点 ⑥
26 喀痰吸引の技術と留意点 ⑦
27 <u>経管栄養(実施手順)</u>
28 経管栄養の技術と留意点 ①
29 経管栄養の技術と留意点 ②
30 経管栄養の技術と留意点 ③
31 経管栄養の技術と留意点 ④
32 経管栄養の技術と留意点 ⑤
33 経管栄養の技術と留意点 ⑥
34 まとめ

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」中央法規	厚生労働省令にもとづき、実時間50時間の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

授業概要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者		
医療的ケア演習	演習	○大澤美保○齋藤みゆき○石田美恵○久手堅るみ子○玉田典子○木谷美保○佐藤理恵○早川ゆい	実務経験教員による授業	○
授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択	
	13時間程度	2年・通年	必修	

【授業の目的・ねらい】

医療職との連携のもとで医療的ケアを安全・適切に実施できるよう、必要な知識・技術を修得する。

【授業終了時の達成課題（到達目標）】

安全管理体制確保から片付けまでを理解し、ひとつひとつの行為ができるようになる。

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

・救急蘇生法演習・・・3時間（1回以上）

・喀痰吸引：口腔5回以上、鼻腔5回以上、気管カニューレ内部5回以上

・経管栄養：胃ろう又は腸ろう5回以上、経鼻経管栄養5回以上

【使用テキスト・参考文献】	【単位認定の方法及び基準】
最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア」中央法規	厚生労働省令にもとづき、すべての授業時間の出席を要す。試験、レポート、出席状況などを考慮して総合的に評価をする。

千住介護福祉専門学校　介護福祉学科　実務経験教員一覧

2024/5/1現在

氏　名	実務経験	担当科目
宇留野 彩子	介護事業所での介護職 介護事業所での支援相談員 障がい児事業所での児童指導員	人間関係とコミュニケーション 福祉ニーズと介護福祉士 介護の基本Ⅰ・Ⅱ コミュニケーション技術Ⅰ 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ 介護実習Ⅰ 介護実習Ⅱ－１・2・3 認知症の理解Ⅱ 障害の理解Ⅱ
増子　大道	介護事業所での介護職	人間の営みとアクティビティケア 福祉ニーズと介護福祉士 介護の基本Ⅰ・Ⅱ 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ 介護実習Ⅰ 介護実習Ⅱ－１・2・3 認知症の理解Ⅰ・Ⅱ
小川　愉	介護事業所での介護職 障がい者事業所での支援員	福祉ニーズと介護福祉士 介護の基本Ⅰ・Ⅱ 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ 介護実習Ⅰ 介護実習Ⅱ－１・2・3 認知症の理解Ⅰ・Ⅱ
大澤 美保	病院での看護業務 訪問看護事業所での看護業務 介護保険居宅支援事業所管理者	福祉ニーズと介護福祉士 介護の基本Ⅰ・Ⅱ 生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護過程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 介護総合演習Ⅰ・Ⅱ 介護実習Ⅰ 介護実習Ⅱ－１・2・3 発達と老化の理解 障害の理解Ⅰ・Ⅱ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ 医療的ケア 医療的ケア演習
早川　ゆい	病院での看護業務 介護事業所での看護業務	医療的ケア 医療的ケア演習
齋藤 みゆき	病院での看護業務 訪問看護事業所での看護業務	医療的ケア演習
石田 美恵	病院での看護業務 居宅介護支援事業所での介護支援専門員	医療的ケア演習
久手堅 るみ子	病院での看護業務 居宅介護支援事業所での介護支援専門員	医療的ケア演習
玉田 典子	病院での看護業務 訪問看護事業所での看護業務	医療的ケア演習
木谷 美保	病院での看護業務 介護事業所での看護業務	医療的ケア演習
佐藤 理恵	病院での看護業務	医療的ケア演習
相野谷 安隆	病院医療事務	人間の生活と社会保障 社会保障と制度

氏　名	実務経験	担当科目
赤池 智江	病院での看護業務 産業保健師	介護の基本Ⅱ
植村 康生	介護施設での管理業務	福祉ニーズと介護福祉士
各務 通子	母子生活支援センター施設長	介護の基本Ⅰ 介護過程Ⅲ
田口　稔己	病院給食調理師	生活支援技術Ⅲ
森　幸枝	病院看護師 居宅支援事業所　所長	介護の基本Ⅱ
倉田 めぐみ	病院、居宅支援事業所所属の理学療法士	介護の基本Ⅰ
佐藤 享	医療法人におけるリハビリテーション部門長	介護の基本Ⅰ 障害の理解Ⅰ
武井 玲子	洗浄剤販売企業の研究員 栄養士	生活支援技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
多田 誠一	養護学校での講師 介護事業所での介護業務	生活支援技術Ⅱ
玉井 沙欧里	心理相談室　相談員 発達障がい児学習指導員	発達と老化の理解 認知症の理解Ⅰ
寺尾 正之	保険医団体での医療政策	人間の生活と社会保障 社会保障と制度
平松 謙一	病院での診療業務（精神科） 障害者事業を運営する社会福祉法人理事長	認知症の理解Ⅰ 障害の理解Ⅰ こころとからだのしくみⅠ・Ⅱ
平松 則子	病院での看護業務　看護記録指導	コミュニケーション技術Ⅱ
新美　育子	地域包括支援センターソーシャルワーカー	介護の基本Ⅱ
吉元　佳子	病院栄養師	生活支援技術Ⅱ
平井　勝	福祉行政職 障害者グループホーム援助員	生活保護入門
木崎　美和子	訪問介護員 NPO法人理事　子ども食堂運営	人間の尊厳と自立
八月朔日　晃一	介護事業所での介護職 認知症対応事業所での介護職、管理職	人間関係とコミュニケーション